ハムのワクワク神智学（1）？！

<はじめに>

私が『**神智学大要**』を知ったのは、2011年1月、NMCAAに参加してからです^^

“NMCAA” とは、“ニューマクロコスモス・アセンションアカデミー”であり、「新宇宙・アセンション学校」の事ですが

当初の私は「アセンション」という言葉も知らず、そこが学校？という認識もほとんどありませんでした

2010年が終わろうとしていた頃、学校長であるAi先生の著書、『**天の岩戸開き**』と出会い

自分がこれまでの人生で求めて続けてきたもの＝目に見えない世界の“真実”がここにあった！！という大感動によって

何も考えずに飛び込んでしまった？！というのがNMCAAに参加した動機でした(*^^*)

Ai先生を中心としたアカデミーでの学びの中から、アセンションとは「意識の進化（上昇・拡大）」の事であり

それは **“愛の進化”** そのものであることがわかってきました

そして、長い間の疑問だった「神（道）とは？神人とは？」についての答えが、ここに在るのでは？と感じました

人は何度も生まれ変わり、なりたい自分へと進化し続けているのだと思います。

「今この時期に、地球にやってきた多くのライトワーカー（光の戦士）は、宇宙史の中で『神智学』を学んできている」

と言われるのだそうです

「神を智る」ことは、宇宙の生成、進化について理解しようとすることでもあり、

科学や物理などの知識がほとんどない^^; 私（地上セルフ）には、内容の多くが意味不明？でしたが

それでも、これまで漠然としていた人体の仕組や、宇宙との関係が見えてきて、目の前が大きく開かれていくようでした^^

そして神智学は、科学や神学など、特別な分野の研究の為だけにあるのではなく、

全ての人が普通に生きていく上で、とても大切な、多くの真実が記されているのでは？と感じました
神智学について知れば知る程、高度で、膨大で、深奥で、私には一生かかってもわからない…、事がわかりました（笑）
なので、わかるところから、はじめたいと思います！
人は皆、幸せになるために生まれてきた！幸せにならなければおかしい！と、強く思うのです
そのために、自身が良いと思う事、プラスになるのでは？と感じたことを、少しでも人に伝えることが出来れば嬉しい！
これは、私の中心＝**“ハートと魂”**から、自然に湧き上ってくる思いです(*^^*)
自分がやりたいこと＝“ワクワクする気持ち”は、「魂からの GO サイン！！」と言われます
“ハートと魂”と呼ばれるものが、とても大切なものであることは、誰もが感じているのではないでしょうか
けれど、レントゲンにも写らないし、学校の教科書にも載っていない…、
本当にそんなものあるの？と、思うことがありました
ハートと魂の感覚はとても繊細で、気のせい？で、なかった事にしてしまうのが、私の長い間の習慣となっていました
アカデミーの学びの中で大切にするようになった、ハートと魂についての感覚を、簡単な言葉にすると

“愛”（＝ハート）と **“光”**（＝魂）です^^

ハートのマスコット **“ハム”**

ハムとは？ハート（愛）の象徴です
愛には、あまりにも多くの意味が含まれていて、言葉にするのが難しい時があります
そんな気持ちをわかってくれたのか？　ある日、ひょっこりと目の前に現れた？私の大切な友達です^^
愛はこの宇宙に遍満する∞のエネルギーであり、「宇宙の共通語」とも言われます

愛は“喜び”や“感動”の事でもあり、**光**は“希望”や“英智”のような感じです
それさえあれば、すべてが上手く行く！そんな気がしてきました^^
“愛と光”、“ハートと魂”の導きのままに、「ハムのわくわく神智学」スタートしたいと思います！！
※「神智学大要」を参考とさせていただきましたが、そのものではありません。尊い神智学との出会いに、心から感謝致します<(_ _)>

『神智学大要』より

宇宙の次元は、いわば重々無尽であり、したがってその真理体系も、重々無尽である。
故にそれらの真理体系は、人類の知性と霊性との発達に応じ、神の経綸にしたがい、劫期ごとに、段階的に、
かつ継続的に選ばれた使徒を通じ、しかも**同一の根源**より、その劫期における全人類の進化のための教科書として、
特定の民族のためではなく、全人類のために与えられる。
神智学は、当時の時点より言えば来るべき新時代であるアクエリアス劫期（現在はすでにその劫期に入っている）に備えて、
選ばれた使徒 H・P・ブラヴァッキーを通じて全人類に啓示されたものである。
（神智学大要1. エーテル体　訳者はしがきより）

上文を見て驚いたのは、「神智学」のスケールの大きさです
私達は、自分の事、家族の事、身近な地域社会の事、それだけで手いっぱいの毎日の気がしますが
それらが無数に合わさって、成り立っているのが地上社会です
その地球は、太陽系の中にあり、銀河系の中にあり、その銀河の数も、どれだけあるのかもわからないのが宇宙です

それら全てを統括している、同一の**「根源」**なるものが存在していて、私達人類は常に導かれていた…
宇宙は、“進化の為の学校” と言われる理由が、とてもよく理解できました^^

神（根源）の経綸（進化の計画）にしたがい、人類の知性と霊性との発達（アセンション）に応じ、劫期（期間）ごとに、
段階的に、かつ継続的に、選ばれた使徒を通じて、全人類の為に与えられる教科書
アクエリアス新時代（今現在）に向けて、同一の根源によって、使徒 H•P•ブラヴァッキーを通じて、
全人類の為に啓示された真理体系（教科書）が、『神智学』であるとされています
「根源（神）」とは、宇宙の彼方にあり、私達には決して手の届かない、至高の存在のように感じられますが
その大いなる見守りの中で、大切に育まれてきたのが、私達人類だった？！！という事に、大きな感動を覚えます^^
私達のルーツをどこまでもたどっていけば、皆、万物創造の、一なる“根源（神）”へと、たどり着くはずです
そこから生まれた沢山の分身（分神）が、それぞれ独自の個性＝自由意志を持ち、様々な宇宙（次元）を体験していくうちに
いつの間にか、大切な故郷の記憶を失ってしまった――
私達すべての、生みの親とも言える、愛の故郷、根源を感じる事ができるのは、内なる愛と光、
“ハートと魂”の、とても微かな感覚しかないのかもしれません

アセンションとは、最終的には、その根源へと帰っていく
私達一人ひとりの、意識の進化（上昇、拡大）、＝神智学における、知性と霊性の発達の事ですが、
中今はいくつもの転換期が重なった、宇宙規模の壮大なるアセンションの時といわれ、
『天の岩戸開き』には、このようにあります
（※中今とは、単なる時間的な今ではなく、過去と未来が同時に存在する、その中心点のような感じです）

「2001年５月５日、特別な宇宙ウエサクの日（ウエサクの日とは、天界と地上の間に通路が開け、
ひときわ強いエネルギーが降り注がれるという５月の満月の日）だったのですが、
これは宇宙史において、最も記念すべき日です。
この日に、いよいよここの宇宙の最終アセンション•ゲイトが初めて開き、宇宙の高次元が
新マクロ宇宙へとアセンションしていきました！
そして新たな超宇宙、ニュー•マクロ•コスモス（NMC）が誕生したのです。

そして、これから述べる事が、日本と日本人にとって最も重要なのですが、
その新マクロ宇宙（NMC）が創造される時、天界全体からの強い要請により、
中心の核は、日本神界で、**“天照”、“天照皇太神界”** と呼ばれるエネルギーとなりました。
それは、一なる至高の根源の光、根源の太陽そのものです。
（究極の神とは宇宙の働きそのものですから、人格神的な考え方はしないでください）
ただし、今回の宇宙最終アセンションに関しては、神（宇宙）と人が一体となり、
地上セルフ（地上にいる皆さんです！）が、そのポータルとなっていくということが、
最も重要であり、奥義となっていくと言えます。」

宇宙でたった一つ変わらないものは、「全てが進化していく」ということであると言われます
人だけでなく、惑星、宇宙も進化（アセンション）していくのです！

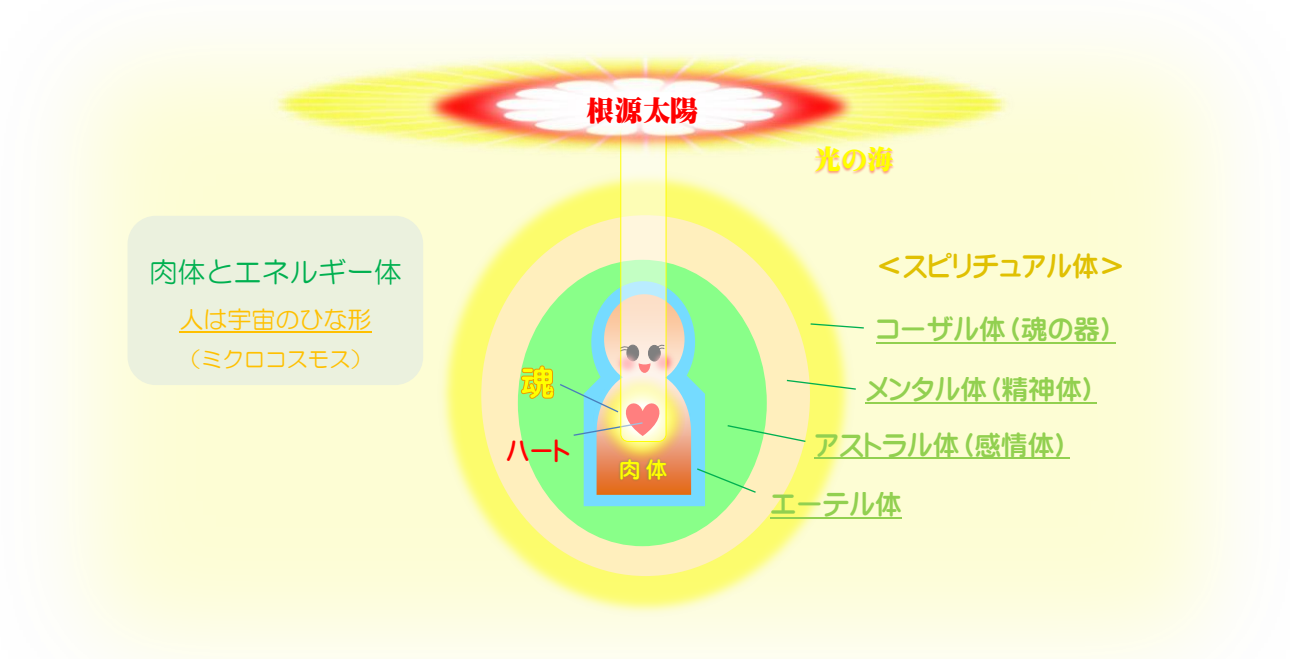
今私が、地球の中の“日本”という国に生まれてきた事、『天の岩戸開き』と出会い、NMCAA に参加した事、
そして神智学を知った事は、決して偶然ではなく、見えない世界ではすべてがつながっていて、
大いなる何ものかに、導かれている事を感じます
永遠の進化の中で、中今という大切なバトンを受け取ったのが、今地上で生きている私達一人一人なのだと思います！
(*^^*)

神智学大要には、少し難しい言葉がありますが、正確にお伝えできるように、
原文をそのまま引用させていただきました
ハートと魂は、どこにあるの？　その答えをみつけていきたいと思います^^

人の体の不思議

◇人は、目に見える肉体と、目に見えないエネルギー体で出来ている？

人の肉体の周りには、幾重にも重なるようにして、目には見えないエネルギー体があるといわれます。



私達人を含めて、宇宙に存在するあらゆるすべては、小さな光の粒“フォトン”（根源の光）から出来ていて、
それぞれが固有の波動（振動数）をもっていると言われます。
その波動が、何らかの方向性（目的）をもった時に生まれる力を、「エネルギー」と呼んでいます。
世界の全てはエネルギーで出来ている、と言えると思います。
エネルギー体は肉体に重なるようにしてありますが、各体のもつ波動数（振動数）が異なっているため、
お互い干渉しあうことなく、それぞれの領域を形成しているようです。
波動の高低は、良い悪いではなく、進化の為の各ステージであり、その特徴です。
人の構造の中で、最も波動の粗い（低い）ものが「肉体」であり、より繊細な（高い）波動域へと、
人の意識が進化していくと、究極には宇宙の根源（根源太陽）までつながっているとされ、
その中心となる鍵が、私達の“ハートと魂”にあるようです。

『神智学大要』では、肉体とエーテル体はセットで一つの体とし、
コーザル体の事を、高位メンタル体（その場合メンタル体は下位メンタル体となる）と呼ぶこともあり、
さらにその上に 4 つの界層が記されていますが、ここではシンプルに「スピリチュアル体」と表現しました。
私達は目に見える肉体だけの存在でなく、エネルギー体でもあるのです。

宇宙全体が、進化の為の学校といわれ、その究極の目的は、一なる根源（神）との一体化にあります。
あらゆる全ての故郷である根源を離れ、様々な宇宙での経験を経て大きく成長し、再びその源へと帰ることです。
地球という惑星は、宇宙の中で最も粗い波動を持つ、貴重な学び（体験）の場とされます。
私達は、私達自身で選択して、今この地球へと生まれてきたのだそうです。驚くべき高倍率を突破して！^^
何故ならば、今再び帰ろうとしている根源とは、宇宙の遥か彼方にあるのではなく、
根源太陽の分身である“魂とハート”を持つ、私達自身の事であり、
私達の住んでいるこの地球なのですから。。。

地球は一滴の水からはじまったと言われます。水は根源の光が物質化したものであり、
愛と光を∞に増幅させる、美しいクリスタル（水晶）の働きを持ちます。
宇宙の創始に、神々の理想郷として創造されたのが、水と緑の惑星、地球なのです^^
まるで“おとぎ話”のようですが、「真実は小説よりも奇なり――」
アセンションについて学ぶようになって、心の底から感じていることです！
今この地球で、人として生きている事が、どれほど素晴らしいことで、
本当の私達には、どれほど凄いパワーがあるのか？ ワクワクしてきませんか！(*^^*)

下記に『神智学大要1. エーテル体』より、「人間の構造」とされる図式を転用しました。（一部変更しました）

≪人 間 の 構 造 ≫

	太陽系の七界層	四つの媒体				
1	アーディ（ロゴス）			モナド＝父なる神の胸中の子なる神	＊	モナドという和音
2	アヌパーダカ				＊	
3	アートマー（ニルヴァーナ、涅槃）		霊		＊＝＊	アウゴエイデス（霊的三複合）という和音
4	ブッディ		直観	魂＝高我 再生する	＊	
5	高位メンタル	コーザル体	観念化（抽象思考）		＊＝	
	下位メンタル	メンタル体	具象思考	マスク・仮面 低我＝	○	
6	アストラル	アストラル体	個人的感情・衝動		○	人間という和音
7	物　質	エーテル体 物質体	肉体による行動		○	

図の第1欄は、例によって太陽系の7階層を示す。
第２欄には人間が現在用いている４つの媒体が示されている。
第３欄、第４欄から、人間は（高位）メンタル界層より上の４界層に、モナド（＊）としての最高の性質をもって存在すること、しかし、認識したり行為したりするための媒体（○）は持っていないことがわかる。

学習の便宜上からいえば、人間の魂はコーザル体の中に住する個性（高我）である。個性（高我）は地上界での化身のために現象我（低我）を造る。低我はメンタル、アストラル、肉体という三つの媒体を持つ。これら低我の各媒体は、それぞれ魂の一側面を表す。

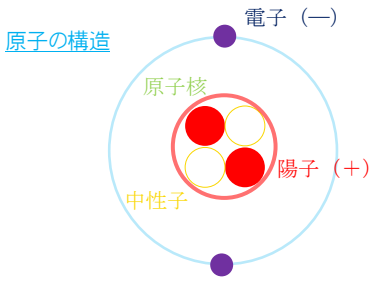
神智学大要の中で“神”は、様々な宗教上の神とは区別する意味で“ロゴス”とされています。
はじめて目にする言葉が多く、難しい感じがしますが、一番左側に、太陽系を構成する７つの界層が記されています。
先にスピリチュアル体とひとくくりにした上位4界層は、上からアーディ界、アヌパーダカ界、アートマー界、ブッディ界となっています。そして、タイトルが「太陽系の構造」ではなく、「人間の構造」となっています。
これまで最下段の肉体しか見えていなかった私には不思議な感じでしたが、エネルギー体の存在を認識できれば、すべては波動（エネルギー）の違いであって、人と宇宙の境界線など無いのでは？と思えてきます。
人の中にすべてがある？！人はミクロコスモスですね^^。

私にとって印象的だったのは、右から2欄目の「＊」と「○」の図で、説明文の中に“魂”という文字が見えます。
「＊」はモナドと言われるもので、「父なる神の胸中の子なる神」とあるように、
父（親）神から生まれた“子なる神”＝「神の分霊」です。
「○」はその器となる体（人が使用しているエネルギー体と物質体）を表したもので、
コーザル体において唯一、「○」の中に「＊」が入っています。
「人間の魂は、コーザル体の中に住する個性（高我）である」とあり、
「肉体を中心とする私達＝○」の中の「“魂”＝＊」は、神の分御魂（わけみたま）」と言われる理由が、
視覚化されて、はっきりと理解できたような気がします！
太陽ロゴスが → モナド（太陽ロゴスが個性化したもの、分神） → 魂（人の中のモナドでありロゴス）へと、
順に波動を下げて降りて来たもの、ということなのだと思います。
そしてその逆を行こうとするのが、アセンションとも言えます。私達の中にある真の自分＝“魂”の事を、
地上セルフ（肉体の自分）に対する、ハイアーセルフ（高次の自分）と呼びます。
コーザル体は、物質体（肉体）より遥かに波動が高く繊細で、私達にはなかなか認識できない次元のようですが、
人であれば誰もが持っている、4つの媒体の内の一つです。
人は、神の子であり、宇宙そのものである事を知っているのが、私達の魂なのだと思います！^^
魂（高我）が、物質界（地上世界）で生きるための媒体として造り出したものが、低我で
メンタル体、アストラル体、エーテル体と肉体で構成されています。
これで冒頭にあげた４つのエネルギー体の輪郭が見えてきました。
各体（界層）は、どのような働きをするのでしょうか？^^

◇エーテル体

人間の構造（太陽系の構造）には7つの界層がありましたが、その各界層は、さらに７つの亜層にわかれています。
物質界の７つの亜層は下から、固体、液体、気体、エーテル体、超エーテル体、亜原子体、原子体とされ、
これら7種類の、密度（濃度）の違う粒子を、すべて持っているのが私達の物質体（肉体）であるようです。

エーテル体は幽複体とも呼ばれ、
「物質（肉体）体を構成している固体・液体・ガス体は、実はすべて精妙なる外被で包まれているのであって、
しかもこの外被は、微細な点に至るまで肉体と完全に一致している。つまり肉体の完全な複写である。」
「この幽複体は肉体よりもやや大きく、皮膚から約四分の一インチはみ出ている。」
1インチは約2.5cmなので見えないこともない？（笑）ようですが、私にはまったく見えません。
肉体の複写というよりも、その設計図のようなもので、肉体に起こることは、先にエーテル体に起こるようです。
固体、液体、気体については、学校でも教わった記憶が在りますが、エーテル体以上については、
はじめて意識する世界です。その特性について、これまでにわかっている事として
「幽体（エーテル体）＝通常の電気や音の媒体、超幽体（超エーテル体）＝光の媒体、
亜原子体＝電気の中でも特に精妙な電気の媒体、原子体＝生物の脳から脳へ思念を伝達する媒体」
とあり、？？…(^^; 音や光は五官（目・耳・鼻・舌・皮膚）で感じるものであり、
また電気と肉体とを結びつけて考えてみた事がありませんでした。
体にバチッ！と感じる「静電気」の事が浮かび調べてみると、今から 2600 年も前に発見されていて、
「電気のはじまりとされる」とあり、驚きでした。
物質を構成する基本的要素が原子であり、人の肉体も原子（酸素や炭素等）で出来ていると言われます。
原子は原子核（＋の電荷を持つ陽子と電荷をもたない中性子）と、－の電荷を持つ電子で出来ており、
陽子と電子の数は同じなので、プラスマイナスゼロとなり、電気的に安定しているそうです。
ところが電子は動きやすい性質を持っていて、原子同士の摩擦等によって、
原子外へと飛び出してしまう事があるそうです。
このバランスを崩した状態（帯電）が静電気で、電気を静かに蓄えている状態との事です。
ドアに触れようとして起こるバチッ！という感覚は、何かの原因で陽子を多くもった状態の手（+に帯電した手）と、
電子を多くもった状態のドア（－に帯電したドア）が接触することによって、
バランスを保とうとする電子が、ドアから手へと移動するため（動電気）のようです。

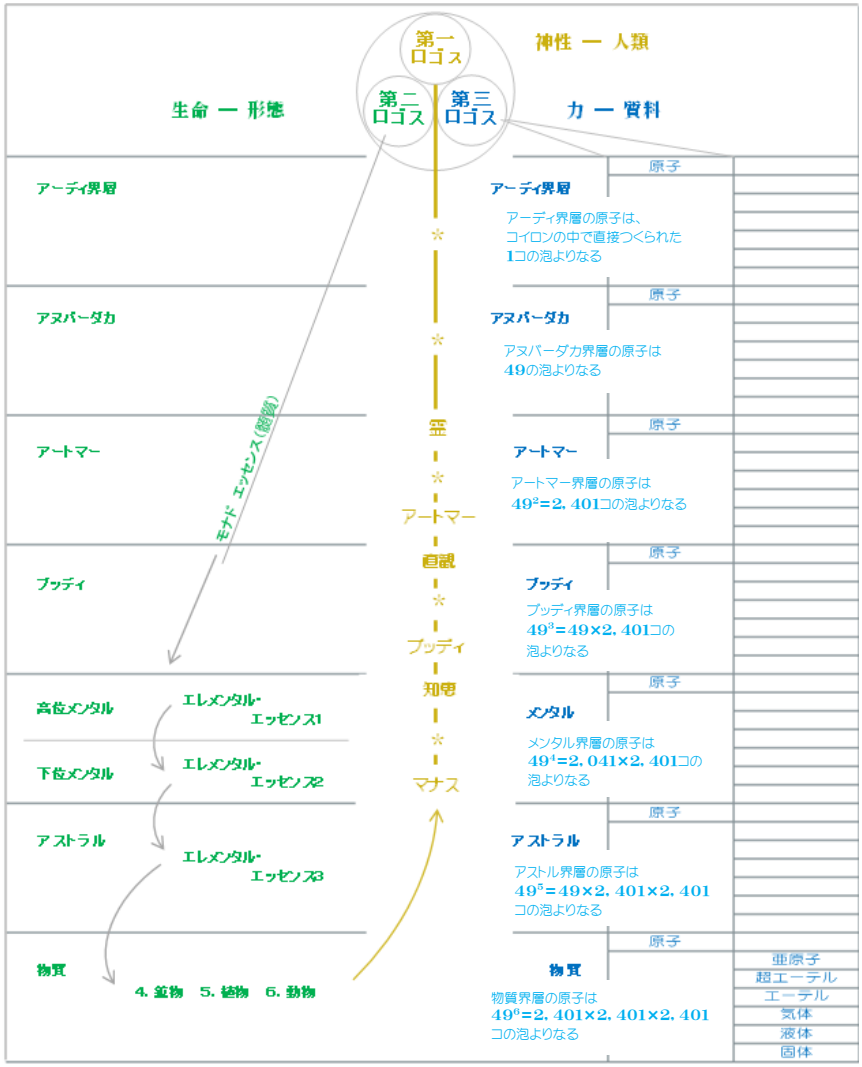


原子の構造は、太陽（原子核）の周りをまわる惑星（電子）のようですね^^
恩恵にあずかるだけで、その仕組みに無頓着で生きてきた私ですが、
静電気について考えてみることで、科学が少し身近に感じられました。人も人以外の物質も、
ミクロのレベルでは原子で出来ていて、その中の電子は、人、物に関係なく、その間を自由に行き来している^^
なんだか人と、回りにあるいろいろな物との壁がなくなって、自然（宇宙）に溶け込んでいく感じです。

小さな小さな世界をみていくと、逆に大きな大きな宇宙が見えてくる気がして、不思議です。
現代は素粒子と呼ばれるものが発見されていて、その究極がフォトン（根源の光）なのでしょうか？
「宇宙はたった一つのフォトンから出来ている」と聞いたことがあります。
たった一つの根源の光が、∞の速度で動いているのが宇宙ならば、「あの時のそれ」は、すべて「今の私」？
＝世界はたった一つ！という事なのでは？^^

神智学大要にも「原子」という言葉が出てきますが、現代科学でいう「原子」とは違っているようです。
下記は、「太陽系ロゴスの三様（三位一体）」とされる図です。

太陽系ロゴスの三様（三位一体）



「太陽系ロゴスが太陽系のお仕事を始める前に、彼は『神の心の世界』の中で、未来の（始めより終わりまでの）太陽系となるべき原型を創造し給うた。かつまた、力、形態、感性、想念、思想、直観であらゆる原型を創造し、それがいかにして、かついかなる進化段階を経て実現すべきかを定め給うた。――
次には、その経綸を宇宙間の中で運行するために、ご自分の第三側面、すなわち「力―質料」としての第三ロゴスを通じてお働きを始められた。原初は、今日の太陽系内にある可視、および不可視の質料の類のものは何もなかった。あるのはただ「根本質料」（空、コイロン）のみであり、この中に御自分のエネルギーを注ぎ、「泡」＝光の点を生みだした。一つ一つの泡は宇宙神の第三側面の意識の一点である。――これらの泡を螺旋状にし、おのおの一コの螺旋に7コの泡をつける。これらの泡は太陽神の意志によってその状態を保つ。これを「第一次の螺旋」という。太陽神はこれらの第一次螺旋のつながり全体を、さらに大きな螺旋にし、こうして7つの螺旋を一コの第二次螺旋にする。次にまた、これらの第二次螺旋のつながり全体を、前と同じように捻って第三次螺旋にする。こうして次々とより複雑・精妙な螺旋を造り進んで「第六次螺旋」に至る。第六次の螺旋のつながりより成る10の並行した撚りが更に図表のように捻じられて、ついに我々の物質の一基本単位（原子）となる。

―――
物質原子は「物質」ではないのである。それは実は第三宇宙ロゴスの意識の無数の点であり、特定の仕事をなさるため―すなわち物質界層を形成するという特定の目的のために―太陽ロゴスによって維持されているものなのである。」
「各七界層の原子ができあがると、第三ロゴスは次にその各亜層を造る。こうして各界層の原子が二つ、三つ、四つ等々のグループとなって各亜層となる。第一すなわち最高界層の亜層は単一の原子達より成るが、第二～第七亜層は、これらの原子が組み合わさった分子より成る。こうして物質界層の最高亜層は、陽性、陰性の二種の単位物質原子より成る。さらにこられの陽性原子と陰性原子とが結合し合って、残りの各亜層が形成される。」

神には、三つの働き（三位一体力）があるとされ、「原子」という文字が、第三ロゴスの働き（右側）の中にみられます。
根本質料（空、コイロン）といわれるもの以外何もなかった宇宙空間において、光の点（泡）が生まれ、
物質原子が生成されていく過程が説明されています。
泡の螺旋が複雑になっていく様は、私の算数（程度、笑）の想像力（^^;ではついていけず、
詳細が理解出来たわけではありませんが、
物質原子は物質ではなく、すべてが第三ロゴスの意識の点であるという事が、私の中で、
目に見える世界の全てをひっくり返してしまう程の衝撃でした。
すべての物質は、ただの物ではなく、神の意識の点（光）であり、私達の全細胞も、神の光（意識）で出来ている…
魂が神（の分神）であり、肉体はその入れ物…というふうに、完全に分けて考えていた自分を発見しました！
脱線ぎみ（笑）と感じますが、太陽系ロゴスの三様について、もう少し詳しくみてみたいと思います^^

太陽系ロゴスは、三つの側面を通じて働くとされ、第一ロゴスは「神性―人類」、
第二ロゴスは「生命―形態」、第三ロゴスは「力―質料」とあります。
第三ロゴスの働きについては、図の右側に記しました。

「第三ロゴスのお仕事は、太陽系の七界層とその亜層の形成であるが、
それは完結しているのではなく、依然として進行中である。第三ロゴスは全界層の質料に「魂を入れる」力である。」

第二ロゴス＝「生命―形態」の側面とは、どのようなものでしょう？

「このようにして第三ロゴスによって形成された七界層の中で、今度は第二ロゴスによるお仕事が行われる。
第二ロゴスのエネルギーは、本質的には、生命―形態（形態とは、鉱・植・動物および人間の種々様々な形の体をいう）
といった方が一番ふさわしい。このエネルギーで第二ロゴスは七界層の質料にいわば入魂し、
「生命」というあの神秘的な性質を持った、様々な形態を造り上げることが出来るようにする。
これらの各形態は、その内なる生命（実は第二ロゴスの生命）が、
その形態の中の質料を維持している間だけ存続する。
―― ここで初めて誕生、成長、老化、死滅という現象が始まる。」
すべての人が、平等に経験する出来事は、第二ロゴスの働きであったことがわかります。

「第二ロゴスがその形態を介して、その一生の間に為しうるだけの進化を、一応は為し終わったため、
第二ロゴスがその形態より、次第にロゴスの生命を撤収するから、老化の徴候を示すのである。
一形態は第二ロゴスがその形態を再び質料の海に返して、進化していく生命に、
一層の成長と真我顕現に必要な体験をさせることの出来る、より新しい、より善き形態を造り出す目的をもって、
その生命を全面的に撤収するために死ぬのである。
第二ロゴスの力が物質界層に現れたのが、プラーナ（活力）である。」

私達の命は、第二ロゴスの、永遠の生命そのものであり
老化や死といった、私達“人”からみれば、ネガティブに捉えやすい現象についての真意（神意）が、
実は永遠の進化のための、素晴らしい仕組であることが明かされています。

宇宙における人の一生とは、どのようなものなのかを知る事によって
必要以上の不安がなくなって、より前向きに生きていくことが出来るような気がします。
それが意識の拡大、進化＝アセンションなのだと思います！
今、「神に委ねる」と浮かびました^^。

矢印で示されているのは、第二ロゴスがそれぞれの界層に顕現していく姿で、
4つの最高界層（アーディ～ブッディ界層）に顕現する場合を「モナド・エッセンス（髄質）」と呼ぶようです。
それは一段一段降りるごとに、神の経綸において予定された進化を遂げ、一旦もとへと戻り、
次の連鎖期（想像を絶する長い期間との事）がはじまると、更に下の界層の質料を入魂するために下降し、
各連鎖期中に得たあらゆる経験を、もろもろの傾向および能力として蓄積していくそうです。
第５連鎖期が始まると、「モナド・エッセンス」から「エレメンタル・エッセンス」へと名前が変わり、
メンタル界層の質料を入魂しはじめます。
高位メンタル界層では「エレメンタル・エッセンス1（第一エレメンタル髄質）」、
下位メンタル界層では「エレメンタル・エッセンス2」、
アストラル界層では「エレメンタル・エッセンス3」となっています。

「メンタル界でちょっとでも物を思うと、またアストラル界でちょっとでも欲を出すと、すぐに波動が起き、

それがどんな微かな波動であろうと、メンタル質料とアストラル質料は直ちにそれに感応して種々様々な形を取り、
やがてそれが想念形態〔肉眼では見えなく、霊眼に映る〕に結晶するという、生き物のような、
奇妙な特徴をメンタル質料とアストラル質料とに与えているのは、第二ロゴスのこの入魂する生命なのである。」

「死後の世界では、思った事がすぐ形となって現れる」と聞いたことがあります。
まさにこのことなのではないでしょうか？
思ったことがすぐ形になるのは、物質界においては、とても嬉しい事であり、少々厄介でもあります（笑）。
ここで疑問ですが、アストラル体やメンタル体は、
普通に今地上で生きている、私達が持っているエネルギー体でもあるのだから、
これは死後の話、で終わらないのではないでしょうか？
日常生活への影響については、アストラル体のところで、考えてみたいと思います。

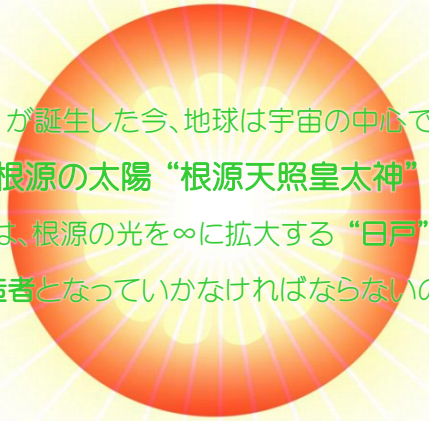
「次に物質界を入魂する。その第一の効果は化学元素に互いに化合する力を与えたことである。
第三ロゴスは、一例をあげれば、水素と酸素とを創造し給うたが、
水素の二原子が酸素の一原子と化合して水になるのは、第二ロゴスの生命が出現したからである。
現在われわれの知っている物質界質料（物質）は、第二ロゴスのお働きによって出現したのである。」

原子が結合して分子となる事は、学生時代に学んだ記憶がありますが、
その理由について深く考えた事がなく、ハッとしました。
今想像されたのは、一つの現象に疑問をもち、探求していくと、
数字で表すことの出来る何らかの法則、複雑・精緻な幾何学模様のようなものが見えてきて、
その美しさと正確さ、力強さに圧倒された時、神（秘）という言葉が生まれる？
というものです。
理系のセンスがまったくない私には、とても不思議な事でもありますが
世界の全て（自然も人工のものも）はシステムである＝明確な法則のもとに動いている、という事で
科学の先にあるもの、宗教や芸術の先にあるものは、すべて同じで、
それが神（秘）なのではないでしょうか。

鉱物界という質料の最下点に達した第二ロゴスは、上昇をはじめます。植物となり、動物となり、

「動物界の中より個人化（鉱・植・動物が一群に一個の魂〔群魂〕しか持たないのに対して、各人が
一個の魂を占有する人間になること。）しうるところまで進化した動物が出現する。」
「――ここに初めて第一ロゴスのお働きがはじまる。
すなわち第一ロゴスは自身の一部（これをモナドという）をコーザル体の中に降ろし、
ここに一個の魂を占有する一人の人間が生ずる。「造り手」に似せて造られた人間の魂の進化がかくて始まる。
その進化とは他ならぬ自分自身、および同胞並びに彼を取り巻く自然の、
あらゆる生命の中に、神性を見い出すことである。
死すべき肉体の中に宿る死せざる魂こそ、第一ロゴスの力の、物質界層における現れである。」

ロゴスの三様の図の中心軸に感じるのは、第一ロゴスから私達“人”へと差し伸べられた、あたたかい手です
宇宙の壮大なる進化の集大成として、「造り手」に似せて造られた“人”とは
これほどまでに尊く、偉大であることに、どれだけの人が気付いているでしょう？
この図のすべてが私達の進化の道程であり、自身のその時々の姿であり、神の姿そのものと感じます。
神智学の真ん中には、神と人とが一体となった“神人”がありました。



NMC が誕生した今、地球は宇宙の中心であり、
太陽ロゴスは、**根源の太陽“根源天照皇太神”**でもあります^^
日（太陽）の本の“人”は、根源の光を∞に拡大する**“日戸”**となり、**“神人”**となり、
NMC の協働創造者となっていかなければならないのだと思います！

≪ エーテル体（幽複体）の役割 ≫

神智学大要では、エーテル体の働きは、大きく分けて二つあるとしています。

1. 太陽から放射されているプラーナ（生命エネルギー）を体内に取り入れる役割

物質界層におけるプラーナとは、
「活力、物質的微分子、細胞などを調和して働かせ、その全体を一定の有機体としてまとめ、
かつ維持するエネルギーである。
プラーナがなければ、肉体は個々の独立した細胞群の、単なる集合にしか過ぎない」
とあります。

2. 粗い波動の肉体と、精妙な波動をもつアストラル体との仲介役、架け橋

「肉体の五官の接触によって生じた意識を、エーテル体の脳をへてアストラル体に伝え、
アストラル体およびそれ以上の高い界層の意識を、今度は肉体脳と神経系統とに伝える。」

太陽の光＝“プラーナ”と呼ばれるものが、あらゆる生命にとって、
なくてはならないものである事は知っていましたが、
エーテル体がその仲介役として、重要な役割を果たしていることをはじめて知りました。
以下に、肉体、エーテル体、アストラル体とプラーナの関係について、わかりやすく説明されていいます。

「神経は肉体の中にありはするが、肉体ではなく、肉体そのものには何ら感ずる力はない、ということである。
「蔽ぉぉい」にすぎない肉体自身は感ずるのではなく、印象を受け取るだけである。
外体（肉体）は衝撃を受けはするが、それ自体の細胞の中には快苦を感ずる力はない。
強いていえば、非常にボンヤリした、鈍い、全体的な感じ方ぐらいのもので、
これは、たとえば、何となく疲れた感じのような、不明確な、散漫な感じをひきおこす。
肉体の感触はプラーナによって内部に伝えられるのであるが、細胞自体から派生する、重い、拡散する感じとは
全く違う。こうして肉体の器官に感覚活動を与え、外部の波動（バイブレーション）を、プラーナの体でもある
エーテル体の次に在る、アストラル体の中に存在する感覚中枢に伝えるのは、すべてプラーナである。
このプラーナが肉体の中を走り、神経が外部よりの刺激だけでなく、内部より発する原動力をも運ぶ
運び手としての働きを可能にするのが、エーテル複体というこの媒体である。」

すこし頭がこんがらかってきた気がしますが…（笑）

ちなみに麻酔とは、肉体からエーテル体を一時的に切り離すことによって、アストラル体との通路を断ち、

痛みを感じさせないようにする働きのようです。
医療における麻酔は、とてもありがたいものですが、麻酔がどうして効くのか？
その理由はまだ解明されていないとの事です。
エーテル体の存在が科学的に明らかになる日も、近いのではないでしょうか^^。

≪ チャクラについて ≫

チャクラはエネルギー送受信の場とされ、一般的にもよく知られているのではないでしょうか？

「エーテル複体には、他の各体と同様に、ある種の力の中枢、サンスクリットでいうチャクラ
（原意は「車輪」、「廻転する皿」）がある。
チャクラは複体（エーテル体）の表面、すなわち肉体の皮膚表面より約四分の一インチのところにあり、
霊眼でみると、渦巻または急速に回転している質料でできた、受皿形状のくぼみである。」
「各チャクラを流れる力は、エーテル複体の生命にとっては必要欠くべからざるものであるから、この力の中枢は、
あらゆる人に備わっているのであるが、その発達程度には著しい個人差がある。」
「エーテル体のチャクラには二つの働きがある。第一には活力すなわちプラーナを吸収してエーテル体へ、
そこから肉体へ分配して、両体を生かし続ける。
第二には、エーテル体のチャクラに対応する、アストラル体のチャクラに内在する特質を、
そのまま肉体に伝え下ろすことである。
――プラーナには七つの種類がある。各チャクラには七種が揃って存在しているのであるが、
各チャクラごとに、七種のうちのある一種だけが特に著しいものである。」

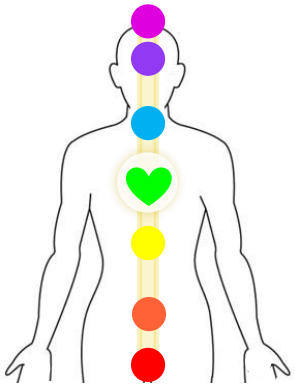
一つ一つのチャクラの働きが図入りで、詳しく説明されていますが、
私には他の一般的なものに比べて、正直、難しく感じられました。

世界は物凄いスピードで日々進化していて、あらゆるものが変化していくのだと思います。
現代の子供は、私達の時代（？）に比べると、手足が長くなり、顔が小さくなって、人が理想とする体形へと
近づいている（進化している）のではないでしょうか？体の機能についても同じなのだと思います。
書籍やネット上には、チャクラについての情報が、豊富に提供されています。
その中から今の自分に合っているのでは？と感じるものを選んで、
とにかく実践してみることが大切なのだと思います。
チャクラを学ぶことで、目に見えないエネルギーの世界を体感することができ、
エネルギー体としての自分を発見する（思い出す）かもしれません。
また、チャクラを窓口として、思いもかけない、壮大なる宇宙とのコミュニケーションが
始まっていくかもしれません^^。
私はアカデミーに参加して、初めてチャクラ（エネルギーセンター）を学びました。（成果はマル秘です、笑）
Ai 先生著の『愛の使者』を参考にさせていただいて、簡単にまとめてみたいと思います。

チャクラとは、人の脊柱に沿って並ぶ、“渦巻く光の輪”のような形をした、エネルギー送受信の場です。
一般的に、主要なチャクラは７つあるとされますが、
アカデミーでは“魂”（本来はチャクラではありません）を入れて、8つとします。
チャクラが存在する体の部位と、色、名称について下記に記しました。
各チャクラには、主となる色がありますが

「各チャクラには七種が揃って存在しているのであるが、
各チャクラごとに、七種のうちのある一種だけが、特に著しいものである。」
と、神智学大要にも記されているように、人によって様々な感覚があり
それが、その人の輝く個性であり、特別な使命につながっている場合もあるようです^^

[人体の主要な8つのチャクラ]



（第８チャクラ）	頭頂	紫	サハスラーラ、クラウンチャクラ
（第７チャクラ）	眉間、額中央	藍	アジュナー、ブラウチャクラ
（第６チャクラ）	喉元	青	ヴィシュッダ、スロートチャクラ
（第５　魂　）	胸の中央	白	
（第４チャクラ）	胸の中央	緑	アナーハタ、ハートチャクラ
（第３チャクラ）	みぞおち	黄	マニピューラ、ソーラープレクサスチャクラ
（第２チャクラ）	仙骨	橙	スヴァディシュターナ、セイクラルチャクラ
（第１チャクラ）	脊椎の基底	赤	ムーラダーラ、ベースチャクラ、ルートチャクラ

チャクラは肉体の中にある様々な内分泌腺、臓器、神経叢とも密接につながっていて、
健康を保つために大きな役割を果たしています。
また各エネルギー体（各体ごとにチャクラは存在するようです）間の、エネルギー送受信の中枢でもあるので、
アストラル（感情）やメンタル（精神）にも、影響を及ぼすとされます。

●第一チャクラ

尾てい骨の近くにあり、生きるための本能を司っています。
アセンション（意識の進化、霊性の向上）においては、活性化すると“意志”のエネルギーとなり、
上昇のパワーとなっていくとの事です。

●第二チャクラ

腹部のあたりにあり、創造のエネルギーを司っているといわれます。
その代表的なものとして「子宮」があげられます。

●第三チャクラ

胃のあたりにあり、感情のエネルギーを司っています。
人の感情にはポジティブとネガティブの両面があり、現在のところ人類の平均的な意識は、
この第三チャクラにあるとのことです。

第一から第三チャクラは、人が地上で生きていくための、本能的な力とも言えますが、
第四チャクラ以上になると、意識が個から全体へ、地上から宇宙大へと拡大し、
より高度で統合されたものとなっていくようです。

●第四チャクラ

全てのチャクラの中心として、胸の中央（心臓近く）に存在します。
これが“ハートセンター”、“ハート”です！（やったー！と聞こえましたが…、笑）
美しいエメラルドグリーンのイメージですが、赤、ピンク、ゴールドと、七変化？するようです^^。

人体の中心に位置し、すべてのはじまりであり、すべてをつなぐものでもある
“愛”のエネルギーを司っているとされます。
ハートセンターの愛とは、普遍的な、無条件の愛（根源の愛）で
ハートは、決して空想上のものではなく、人が人として生きていく上でとても重要な、
人体の機能の一部だったのです！

そして、●第五のエネルギーセンターが“魂”です。

下記は『愛の使者』より抜粋しました。

「ここで重要な事は、宇宙創始からの高次の流れを汲むアセンション・アカデミーでは、
トータルで七つのチャクラとするのではなく、現在「八つ」としていることです。
実は太陽系の創始、太陽系の文明としてのアトランティス最盛期では、「八つ」だったのです。
ここでは詳細は述べませんが、地球は様々な意味で、古来から「七」の数霊とされており、太陽は「八」で表されます。
実は地球人類が本格的なアセンション・シーンに突入した 1960 年代から特に、
この「八つ」のエネルギーセンターでないと、対応できなくなってきているのです。
それは中今の太陽系のアセンションエネルギーと対応しているからです。
各チャクラは各次元ともつながっているのです。」

数霊（だけではありませんが ^^;）についての知識がない私には、諸々謎ですが、“七 ”から“八” へのシフトについて

「太陽ロゴスのお仕事に、七柱のご存在が携わっておられる。このお方々を七惑星司神といい
何れも太陽ロゴスの御性質の表現であり、太陽ロゴスの尽きることなき生命の媒体である。」
「これらの七惑星ロゴスのエネルギーが、太陽系内でおきるあらゆる出来事を統御し、さしずしている。」
と、神智学大要にあることから、自分なりに推察してみると
いよいよ七惑星ロゴスの主である“太陽ロゴス” が、本格的に動き出し（太陽系のアセンション始動）
地上の人（日戸）が、本来の役割を発揮する時が来た！
人の中の太陽＝“魂” が、全面に現れ、地球と太陽系のアセンションが連動する時代になったという事なのでは？
人の第8チャクラ（頭頂のチャクラ）は 8 次元太陽そのものであり、第5の“魂”（5 次元）とつながり、活性化し
一人ひとりが、地上の太陽となる時代が来た！！ということではないでしょうか？

魂もやはり人体の中心にあるとされ、ハートとの関係は、
「ハートの門を通って、魂（真の自己）の神殿へと至る」というのが、イメージしやすいかもしれません。
ハートと魂がどのようなものか？だんだんわかってきた感じがします^^
ハートと魂がどれほど重要かは、後述させていただくとして、次に進みたいと思います。

●第六チャクラ

喉元にあり、科学的な思考や、芸術的なエネルギー等を司ります。
言霊（ことだま＝言葉に宿る霊的な力）の源は“魂” ですが、地上ではこの第六チャクラが、
言霊の発現に関係するエネルギーセンターなので、「表現」のチャクラとも言えるようです。

●第七チャクラ

額のほぼ中央に位置し、「真実、真理を観ることができる」という意味から
「第三の眼」とも呼ばれています。
人体のクリスタルとされる松果体や、頭頂のチャクラ（第八チャクラ）ともつながっていて、
様々な重要な働きがあるとされます。適切に発達してくると、銀河、宇宙の

アカシックレコード（高次のエネルギー帯にある、様々な記録、情報）とつながることができます。
また浄化や昇華の働きもあるとの事です。

●第八チャクラ

頭頂にあり、霊性の開花、すべてとの一体感（宇宙意識）へと至る場であり、
第一から第七の全てのチャクラが適切に活性化されると、自然に開かれるとの事です。
チャクラは現代医学との統合によって、私達の心と体両面の、真の健康にとって欠くことのできないものと
なっていくのだと思います。小さな子供が、「ひらがな」や「九九」を習うように、
エネルギーセンター（チャクラ）が当たり前となったら、
エキサイティングで、素晴らしい未来が訪れるのではないでしょうか！（*^^*）

❤ ハートと魂について☀

コーザル体に住する私達の魂は、神の分霊（分御魂）であり、“真の、永遠の自己”であることが分かりました。
そして愛のエネルギーを司るハートは、人体の中心にあるチャクラ（エネルギーセンター）で、
肉体と魂との中間に存在するものと言えます。
どちらも目には見えませんが、すべての人が持っているものです。
では、“愛のエネルギー”とはどのようなものでしょうか？
愛は、あたたかさ、優しさ、強さ、清らかさ等、どんな言葉にでも置き換えることの出来る、
生きる喜び、感動の中心となるエネルギーだと思います。
愛を知らない、一度も感じた事が無い、と言う人は、一人もいないと思います。
そして多くの人が、「生きていく上で最も大切なもの！」と感じているのではないでしょうか？
自身が愛を感じた時の事を思い出してみると、胸がジーンとあたたかくなったり、
ドキドキときめいたり、ウルウルしたり、自分の中心で何かが反応している感じがします。
それが愛のセンサーであり、ハートセンター（チャクラ）と呼ばれているものなのだと思います。
そしてその奥にあるのが、真の自己であり、神の分御魂である魂です。
神（宇宙創造主）は、普遍の愛（根源の愛）の一なる源、あらゆる全ての生みの親であり、
すべては、その愛から生まれ、愛によって育まれる、愛そのものです。
魂を持つ私達人もまた、愛です。
愛のエネルギーを司るハートセンター（4 次元）が、どんどん活性化していくと、
魂レベルの愛の波動（5次元）へと上昇していき、魂と一体化していきます。
魂は自己の現実（3 次元）の創造主なので、多くの場合、この状態をアセンションと呼んでいる様ですが、
NMC（12次元以上）が誕生した中今は、ここが始まりであり、更に永遠∞の愛と歓喜の世界へと上昇していきます。
それが“根源へのアセンション”と言われるものです。（*^^*）
魂へと至る門であるハートは、すべてのチャクラの中心であり、心臓が全身に血液を巡らすように
ハートチャクラが活性化すると、その他のチャクラも、適切に活性化していきます。

「魂は、宇宙創始からのマスターの叡知でも、その本質は「太陽」と同じであり、
その一部であると言われているのですが、魂を自分の太陽だとすると、

各チャクラはそこからプリズム（水晶などの多面体）で別れた、各光線であると言えます。
虹のような感じですね。その光線には、様々な働きがあります。
主には、様々な高次のエネルギーを、魂とハートを中心に各エネルギーセンターを通して
肉体に伝えるというものです。」（『愛の使者』より）

各エネルギーセンター（チャクラ）は、自己の太陽＝“魂” の分光（光線）です。
太陽は分け隔てなく全てを照らす、∞の愛の光！
私達“人”は “日（の）戸”であり、自らの内に輝く太陽の光を、
ハートを中心としたエネルギーセンターを通して、意志（意識）によって、周りの世界に放つことが出来ます。
宇宙に存在するたった一つの法とは、**「アセンションの法則（愛の法則）」**であり
A（scension）＝L（ightwork） **「宇宙に与えたものが、何倍にもなって返ってくる」**というものです。
愛はもらうものではなく、自らが発現するものであり、それは共鳴によって、何倍にもなって返ってくるのです^^
地球は宇宙の雛形であり、愛の法則（アセンションの法則）こそが、地上唯一の法なのだと思います
使い方をすっかり忘れていた（私の場合？笑）“ハート”＝“愛のエネルギーのゲイト”をオープンし、活性化し
真の自己（魂、ハイアーセルフ）とつながることによって、∞の宇宙高次とのコミュニケーションがはじまっています！
根源太陽の子供である私達には、36色（次元）の光に輝く、∞の可能性の未来が見えます^^

≪ 意識ついて ≫

私にとって意識とは、「意識する＝何かに気持ちを向ける事」くらいにしか考えておらず
日々、無意識に行われていることに気付きました
そもそもアセンションは、“意識の進化”とされるので、とても重要なことなのでした
神智学大要1. エーテル体「意識の進化」には、このように記されています

人がもし意識とはそもそも何であるか。
すなわち意識の真相を理解することができるならば、
彼は進化のあらゆる問題の解決の鍵を見出すことができよう。

何故ならば、意識は力であると同時に、資料、形態であり、
また同時に、生命である唯一者の最高の表現であるからである。

この文に触れた時、喜びが溢れ、誰かに話しかけられているような気がしました
意識とは「生命である唯一者の最高の表現である」事に感動し、
生命である唯一者＝神なるものの、まさにその姿を、すぐそこに感じたのだと思います^^
意識は誰もが持っていて、自由に使うことが出来ます
何よりも凄いのは、「常識」とか、「限界」という壁を、ことごとく超えていくことです！
小さな自分が、偉大なる神へと向かっていく、希望の光と感じます
意識が力＝“エネルギー”であることがわかれば、質料、形態となることも理解できます

「意識に関するまず第一の不思議なことは、全体が部分の中にあり、合計が一単位の中にあることである。
一コの電子の中にある意識は、ピンの先程もないのであるが、この微小なる一コの意識は、
意識の膨大なる総計、すなわち神につながっている。
もろもろの制約を負う我々は、ロゴスの微小部分が微小なる電子と成ったとしか思わないが、
実はロゴスの一切が一コの電子の中にあるのである。」

「太陽系ロゴスの三様」のところで、すべてものが、ロゴスの意識の点（光）で出来ている事を学びました
私達の意識には、ロゴスの一切が眠っているのです

「人間における意識の進化とは、まず第一には魂（高我）の、次にはモナド（超高我）の、
最後にロゴス（司神）としての自分（神我）の、隠れたるもろもろのエネルギーを、
各界層において造った媒体を通じて、解放し、発揮する過程のことである。」

人の意識が、∞の可能性を秘めた、莫大なエネルギーであることに気付いたことは、
私にとって、とても重要なことでした
けれど、意識は永遠なる神であり、未知であり、まだ、はじまったばかりなのだと思います
これからは、意識に対して、意識的でありたいと思います^^

「いかにして意識が進化するのか、すなわち意識の進化の仕方を知的に把握しただけでは、
その意識の開顕には不十分ではある。
しかしながら、意識の進化の仕方に関する知識の習得こそ、学問中の学問なのである。」

◇アストラル体

「人間のアストラル体は一個の媒体であって、霊眼には肉体に似ないでもない形態として映り、
閃光を発するさまざまな色彩がこれを取り囲み、物質よりも実に高度の精妙な質料によって構成され、
その中において、もろもろの情緒や激情、欲望、感情が表現され、
肉体の頭脳と精神（後者はさらに高度の媒体すなわちメンタル体の中で機能する）との間の連絡橋ないし
媒体となる。あらゆる人間がそれぞれアストラル体を持ち、アストラル体を用いているのであるが、
その存在を自覚し、あるいは完全に意識したままでそれをコントロールし、その中で機能しうるのは、
比較的少数の人々にとどまる。

大部分の人々では、それはほとんどアストラル質料より成る未発達の塊りでしかなく、
その動きや働きはほとんど「人間自身」、すなわち高我の統御に服していない。
しかしながらその一方で、アストラル体がよく発達し、完全に組織された媒体となり、独自の生命を持ち、
そのために多くの有用な力を与えられている人々もいる。」

アストラル体は感情体とも呼ばれ、私達の感情が発現される媒体となるものです。
もし人に感情がなかったとしたら、周りの景色から、すべての色が消えてしまったかのような、
空虚で冷たい世界が広がっていくのではないでしょうか。
喜びや感動こそが、生きていくための、なくてはならない原動力と感じます^^
私はこれまで、人は「肉体と精神（心）より成り立っている」という、大雑把な考え方しかしてこなかったので
感情（アストラル）と、思考・精神（メンタル）を司る独自の媒体（エネルギー体）が存在すること、
また、アストラル体やメンタル体には、それぞれアストラル界、メンタル界なるものが存在していて、
肉体の暮らすこの地上社会のような場所（波動域）が、他にもある事に驚きでした。
目に見えない世界については、ただ漠然と想像するしかなかったので、太陽系の7界層を知ったことは、
目的地へと向かう地図を手に入れたような喜びを感じました^^

エネルギーの世界の探求について、神智学大要には、このように記されています。

「アストラル質料は物質よりずっと精妙なので、物質の中に浸透している。
従ってあらゆる物質原子はアストラル質料の海の中に浮かんでいるわけで、アストラル質料が物質を取り囲み、
その中のあらゆる隙間をみたしている。いうまでもなく、最も固い物体の中でさえ、原子が触れ合うことはなく、
隣り合っている原子間の空間は、事実、原子自体の大きさより遥かに巨大であることは周知の通りである。
――エーテルが最稠密の物質の粒子間を自由自在に動き廻るように、アストラル質料もそれに浸透し、
その粒子の間を自由自在に動き廻る。このようにして、アストラル界に生きている存在者は、
物質界に住んでいる存在者と同一の空間を占めることになるが、それでいて、一方はまったく他方を意識しないし、
他方の自由な動きを妨げることはまったくない。学習者はこの基本的な事実を熟知しなければならない。
それは、この事実を明確に把握しなければ、多数のアストラル現象を理解することはできないからである。
この浸透の原理によって、自然のそれぞれの領域が、別々に分離して空間を占めているのではなく、
われわれのまわりに、今ここに実存するのである。
従って、それを知覚したり調査したりするのに、何も空間を動き廻る必要はないのであって、
我々自身の中にある知覚器官を開発しさえすればよいのである。
従ってアストラル界層は一地域ではなく、自然の一状態なのである。」

すべてが今ここに存在するということを、数年前までは全く理解できませんでした。
けれどこれらの事を知って、意識を向け続けることで、徐々にではありますが、
理解が深まっている感覚があります。世界のすべてが波動（エネルギー）で出来ていて、
共鳴によってのみ感じることが出来るということを理解する事は、とても大切だと思います。
たとえ半信半疑であったとしても、こちらから発現しなければ、絶体に共鳴は起こりえないからです。
エネルギーが高いほど、繊細微妙なので、より困難となりますが、
はじめは細い糸の様なつながりが、どんどん太く確かなものへと変わっていくようです。
イメージできるものは、その波動を感じているということであり、良いイメージを膨らませていくことは、
良いエネルギーの場を、共鳴によって創り出しているということなのだと思います。
実際にこのようにして出来ているのが、この地上社会なのだと思います。

私のように、自分は関係ない、と思っていませんでしたか^^？

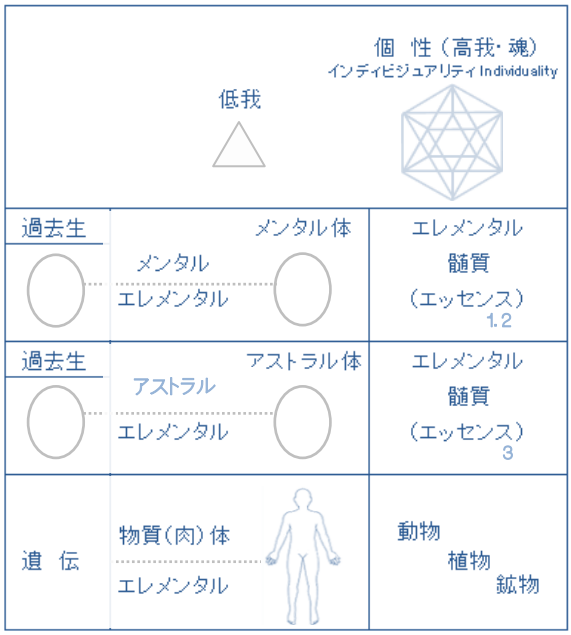
≪ アストラル体の構成 ≫

物質に七つの濃度（7つの亜層）が存在するように、それに対応するかたちで
アストラル質料もまた七種あるとされます。

「アストラル質料はその浸透している物質に、奇妙なくらいの正確さで対応する。
すなわち、各濃度の物質はそれに対応するアストラル質料をひきつけるのである。
人間のアストラル体は七種の濃度の質料全部によって構成されているので、
最高から最低に至る、あらゆる種類の欲望を経験することが可能となる。」

私達の日々の感情とは、7つの引き出し（亜層）の内のどれかを開けて
引っ張り出しているようなものかもしれない？と思いました。選んでいるのは自分です。
『太陽系ロゴスの三様』図にみるように、下の層へいくほど、物質化する＝個の追求が目的であり、
自分は他とは違うという、分離の傾向が強くなっていくとの事
もし、何か違うのでは？と感じたら、いつでも閉じて、別の引き出しを開ければよいのだから、
心がグンと軽くなりませんか？^^。
また、すべての人が同じように、最高から最低の引き出しを持っているのなら
どの波動で対話（共鳴）したいか？を、自分で選ぶことが出来るということだと思います
愛に溢れる人は、何があっても自分の波動を下げない、強い意志を持っている、という事なのかもしれません^^。
真実を知る事、そして訓練することは、とても大事な事だとあらためて思います。

人間の低我要素



人のもつ3つの低我（物質とエーテル体、アストラル体、メンタル体）が、
どのような要素で成り立っているかが描かれています。
最上段の右側に描かれている多面体は、様々な可能性をもつ個性（高我・魂）を象徴していて
その隣にある小さな三角形が、個性の一面である低我を表しています。
二段目がメンタル界、三段目がアストラル界、最下段が物質界です。

高我（魂）が地上に顕現するための媒体として造られたものが、低我であることは先に述べましたが
この図から、「輪廻転生」とはどのようなものなのかが、わかると思います。
高我（コーザル体に住する魂）は、低我（三角形）が、神の子である本来の姿（多面体）へと進化していくために、
何度も低我を地上に生みだし、その経験を蓄積していきます。その過程が輪廻転生といわれるもので、
生まれるということは、肉体をもちながら、より神へと近づいていくこと（進化、神化）、
その新たなチャレンジの場を与えられる、ということでもあります。
地球とは、最も波動の粗い（低い）ものから、最も繊細な（高い）ものまで、全てを体験する事が出来る、
貴重な学びの場であるとされます
（ハイリスクハイリターン、地球へ生まれてきたことは、勇気の証でもあります^^）。

地上での生を終えると、順にその衣をぬぐようにして、アストラル界、メンタル界（天界）へと昇っていき、
癒しと再生の為の準備を経て、再び物質界へと生まれるようです。
目標である多面体が完成するまで、それは続いていきます。

図からわかるように、私達の各体は、
「体を使役する低我の生命と意識とは全く違った、独自の生命と意識とをそれぞれもっている。」
とされ、アストラル体の体意識を、アストラルエレメンタルと呼びます。
この体意識は、「太陽系ロゴスの三様」のところで触れた、下降する矢印で示された第二ロゴスの生命です。

「それは「生命」の下降弧にあり、後に鉱物となり、植物の生命となり、動物の生命となるために、
「質料の中に下降」しつつあるのである。主としてその必要とするものは、
自分（エレメンタル）が生きていると感ずる事、それもできるだけ多くの変わった方法で感ずることである。
それはいろいろな種類の波動を欲しがる。その波動が粗ければ粗い程、言い換えれば
物質性に傾けば傾く程、それにとっては喜びなのである」

次の再生に向けてまとう質料は、その人の直近の地上での生（過去生）の終わりに、
アストラル界において脱ぎ捨てた、その時のアストラル質料に、そっくりそのままであると言われます。
生まれ変わる時は、前生での感情（アストラル）や精神（メンタル）の傾向を、そのまま引き継いではじまるので、
やり残したことは克服しなければならず、積み上げたものは生かすことができます。
才能や適性とは過去生において、すべて自分で磨いてきたもの、
自分がしたことは、そのまま自分に返ってくるのであり、長い目でみれば、人は平等なのです^^。
肉体は両親によって提供され、両親の中の先祖代々引き継がれた遺伝子の貯蔵庫から、
高我のカルマ（習得すべき課題）に見合い、かつその低我が誕生後の行為を営むのに役立つ遺伝子が
選びだされるのだそうです。
輪廻転生とは、人の進化の為に、神とデヴァラーヂャ（人とは進化の系統を異にする高次の存在）方によって
運営される、とても高度で公正なシステムのようです。
（輪廻転生については、『神智学大要4. コーザル体』においても説明されています。）

人の持つアストラル体とは、このような質料で出来ていることを学び、
自身の中にある様々な葛藤、矛盾の理由が、はじめて理解された気がします。
霊から物質へと下降していく、一つの大きな進化の過程を終え、今再び霊的存在へと帰っていく、
上昇の道程が始まっています。私達は皆、宇宙全体の進化のための協働体であり、
一人一人がかけがえのない戦士と言えるのかもしれません。
何度失敗しても、転んでも、前向きに生きようとすることは、それだけで、

とても尊い事なのではないでしょうか！

次の図は、「人間の高我要素」と、物質界における3つの側面が表されています

人間の高我要素

デーモン 高　我	＊ アートマー（霊的意志） ＊ ブッディ（直観） ＊ マナス（精神）	
眠れる意識		コントロールする意志
潜在意識	普通の顕在意識	超　意　識
偏　見	メンタル 考え	概　念
貪　欲	アストラル 欲　望	愛　情 同　情
先祖返りする 習　慣	肉　体 機　能	自己統制 純　潔

上段に記されている、アートマー（霊的意志）、ブッディ（直観）、マナス（精神）が、高我とされるもので
これは「人間の構造」の図式の中に出て来た「アウゴエイデス」＝霊的三複合体の事です
人は7つの素因からなるとされ、マナスとは、（ロゴスの）生命がメンタル体（コーザル体とメンタル体）に現れ、
その影響を受けた相との事です。ここでは、コーザル体を指しています。
（7つの素因の高位三体が、霊的意志（アートマー）、英智（ブッディ）、思考精神（マナス）で
下位四基が、カーマすなわち欲望、プラーナすなわち活力、エーテル体、物質体との事です）

アートマーは、“霊的意志”、“霊”、“力”、“良心”
ブッディは、“英智”、“愛”、“キリスト意識”、“直観”、“直感”
マナスは、“思考精神”、“マインド（心）”、“純粋理性”、”霊感（インスピレーション）” 等
様々な言葉で表現されていて、どのようなものかは、自身でつかんでいくしかないのだと思いますが
肉体はアートマーの、アストラル体はブッディの、メンタル体はマナスの写しであるとされ
ヒントになるような気がします^^

「モナドがニルヴァーナ（涅槃）界層において、炎より一コの花火として離れて、
自分がアートマー（霊的意志）、ブッディ（直観）、マナス（思考）という三位一体であることに気付いた時に、
行為者としての独自感覚がモナドの中に始まる。ニルヴァーナ界層におけるこの三位一体なるモナドは、
いわば縮小されたロゴスであり、あらゆる意味において、その創造主に似ている。」
「アウゴエイデスすなわち光明身とは、人間の高位の三素因、すなわち霊的意志、直観、思考心の別名である。
これは人間が過去世においてまとってきた、幾つもの体の中にある、最善のもの全部の精髄を包含している。
それは経験を経ながら成長してゆくうちに、人間の究極の相として予定されているものを、
大なり小なり完全に現わしている。」

高我であるアートマー・ブッディ・マナスの、下位の側面とされる、
メンタル（考え）・アストラル（欲望）・肉体（機能）
それ自体は、良いとか悪いとかいうものでなく、それぞれの働きなのだと思います…顕在意識（中欄）
けれども、数多くの輪廻転生を経ることによって、偏見や貪欲となって蓄積されていき…潜在意識（左欄）
より良く生きていく事、常に愛と光を選択する事＝アセンション（進化）によって、
それらが、昇華・統合されていく…コントロールする意志、超意識（右欄）
ということなのだと思います^^

偏見や貪欲が生まれる理由の一つとして、下記文面がわかりやすいと思います。

「人間のアストラル体は普通のアストラル質料だけではなく、エレメンタル髄質からも構成されている。
このエレメンタル髄質は、本人の生きている間、周囲の同じエレメンタル髄質の海から分離して、
事実上一種の人工エレメンタル、すなわち欲望エレメンタルと称される、一種の半ば知性のある独立の存在になる。
この欲望エレメンタルは、たまたま自分が附属することになった高我（魂）の都合や意図にはお構いなしに
（あるいはまったく知らずに）、物質になることを目標として、それ自身の進化（正確には逆進化）のコースを辿る。
もともと物質の波動は粗いので、欲望エレメンタルは物質に進化するために、より強烈な、より粗い波動を求める。
これにより精妙な波動すなわち、より高尚な感情を求める人間の目的とは、まったく相反することになる。
そのうえ欲望エレメンタルは、メンタル体のメンタル質料につながると、その波動が一層活発になることに気付き、
メンタル質料を掻きまわして自分に同調させようとする。そうとは知らずに本人は、
欲望エレメンタルが欲望している興奮を、自分の欲望と思い込んでしまう。その結果が一種の気質となるのである。
だからといって欲望エレメンタルが邪悪な存在であるというのではない。
事実それは生まれ変わる力がないから、決して進化する存在ではない。
進化するのはそれを構成している髄質だけである。またこのいわば影の存在は、
別に人間に対して悪意があるわけではない。なぜなら、それはある期間中人間の一部と成っていながら、
その人間のことは何も知らないからである。だからそれは決して恐るべき悪鬼ではなく、
人間自身と同様に神の生命の一部であり、ただ進化の過程が違うだけである。
――人間はその一生を通じて、欲望エレメンタルおよびその低級、粗雑な形而下の波動を求める傾向と、
決定的に闘っていかなければならない。その際欲望エレメンタル自身の意識や、その好き嫌いは、
決して自分のものではないことを前もって知っておくとよい。それは自分自身が造ったものであり、
その奴隷になることはなく、かえってそれを支配し、自分とはまったく別の存在であることを、
学び取らなければならないのである。」

人は、自分の中から浮かんでくる考えや感情は、すべて自分のものであり、自分のせいだと思い込み、
いたずらに苦しむのではないでしょうか？
これらの事実を知っていれば、客観的な目で自己を観察することが可能となり、
自分自身を赦す事、愛する事が、もっと楽に出来るような気がします
他に対して、あまり好ましくない感情をぶつけてしまうのは、
自身の内面がそのような状態にあるからで、その苦しい胸の内を、外に向けて発しているだけで、
自身が幸せを感じている時には、決して出来ない事なのだと思います
アストラル体に関する正しい知識を得ることによって、まず自分を幸せにすることが、
回りを幸せにする事へと、つながっていくのではないでしょうか^^

≪ アストラル体の働き ≫

アストラル体の働きは大きくわけて三つあるとされます。

1. 感覚を可能にする
2. 精神と物質との間の懸け橋となる
3. 意識と行動とをおこす独立の器となる

1. については、これまでのところで大体の事が理解できた感じがします。

2. の「精神と物質との間の懸け橋となる」について

「肉体感官上の刺戟はプラーナによって内部に伝えられ、カーマ体の中にある感覚中枢の働きによって伝えられ、
マナス（サンスクリット）すなわち精神に覚知されて感覚となる。
そういう次第で、アストラル体の全体的な働きがなければ、外界と人間の精神とのつながり、
物質的存在による刺戟と、精神によるその覚知との間のつながりはありえなくなる。」
「精神はそれ自身では、肉体頭脳細胞の微分子に影響を与えることはできないが、
欲望と結びつくと、肉体の微分子を運動させることができるようになる。
こうして頭脳の記憶や、われわれの普通知っている人間精神のあらゆる機能を含む
「頭脳意識」が生ずるのである。」

肉体を動かしているのは、すべて脳の働きだと思い込んでいたのは私だけでしょうか？
脳は、エネルギー体とプラーナの連繋によって動くことが出来るのだから、
脳を発達させるには、エネルギー体の活性化が不可欠という事になるのではないでしょうか。
現代人の脳がわずか3%しか使われていないとされるのは、
エネルギー体について、ほとんどの人が知らないからなのかもしれません。

3. の「意識と行動とをおこす独立の器となる」について

①アストラル感官の力は、普通の覚醒状態、すなわち肉体の頭脳と感官とがはっきりと目覚めている間中、
これを働かせることができる。
②睡眠あるいは三昧中、アストラル体は肉体から離れて、アストラル界層を動き回って自由に機能する事ができる。
③人間はアストラル体のいろいろな力を発達させることにより、意識的にかつ慎重に、いつなんどきでも
欲するままに、肉体から抜け出て、その意識を中断することなくアストラル体に移すことが可能である。
④肉体の死亡後、意識はアストラル体に移ってアストラル界層で生活することもできる。
その際新しい生活の内容と期間は、若干の要因によって著しく異なる。

人が眠っている時、アストラル体は肉体という衣を脱いで、自由に動き回っているとの事
肉体を離れ、時間や空間の制限から解放されることによって、エネルギー体をリフレッシュする目的もあるようです。
これらの事から、私達の普段の意識が、限定された、とても小さな世界に押し込められている事がわかり
意識の拡大が、進化（アセンション）とされる理由が理解できました^^。
神智学大要には、エネルギー体に関する、たくさんの興味深い内容（超能力等）が記載されています。
けれど、地上に生まれた私達のテーマは、肉体を中心とするこの現実界（3 次元界）において、
いかに充実した素晴らしい人生をおくることができるか？という事で
そのためには、自身の感情のバランスを保ち、調和された、豊かな人格を形成する事が大切だと思います。
神の子としての人＝愛そのものであり、希望と喜びに溢れた、誰もが幸せな社会を、
この地球上に創造するために、真の個性（魂、高我）発現に向けての努力が、最も大事なのだと思います。

神智学大要を学んで強く感じたことは、大愛・万能の神は、自身から最も遠い物質世界において、
私達“人”を通す事（器とする事）でしか、何も成すことはできない――
“人”の成長・神化は、神の宇宙創造という、最大の願いであり、喜びである、ということです^^。

≪アストラル界の住人≫

不思議の国のアストラル界の住人についてです^^。
感情には、国籍、性別、年齢等、何の制限もないので、この世界は∞の広がりを持つと思われます。
アストラル界とはどのような世界なのかを知る、ヒントとなりそうな部分（存在）を抜粋しました。

【人間の部類】

〇肉体を持って生きている者

1. 普通人

この部類の人々は、肉体の睡眠中様々の発達程度にある意識をもって、アストラル界層に浮かんでいる人達より成る。

2. 霊能者

3. 大師とその弟子達（高度に進化した人と、その途上にある人）

この部類の人達は通常アストラル体ではなく、メンタル界層の低い四亜層の質料より成るメンタル体を用いる。
このメンタル体の利点は、メンタル界とアストラル界との間を瞬時に往復しうることと、メンタル界層特有の、
すぐれた力と鋭敏な感覚とを、四六時中使用しうることとにある。

〇肉体の死滅した者

1. 死後の普通人

この部類は非常に多く、多種多様の意識状態にある、あらゆる段階の人々より成る。

2. 殻

殻は人間のアストラル体が崩壊して、精神が全面的にそれから抜け出た後期のアストラル死体である。

3. 生まれ変わりを待っている弟子

自分の天界入りをせずに物質界層（地上）で働きつづける決心をした弟子は、
非常に高位の御方のお許しを得てのみそうしうるのである。

4. ニルマナカーヤ

ニルマナカーヤとは大師以上のきわめて高度の、人間の智慧では測り知ることのできない、進化の指標に達して、
言語では表現のしようもない至福の中に、幾千代もの長きにわたって安らぐ権利を得られたにもかかわらず、
なおも地上に接触しうる範囲に留まることを選ばれ、地上の一切の意識体の進化を助長するために使用されるべき、
ある種の霊的力を送るために、いわばこの世界と涅槃との中間にいらっしゃるお方である。

【非人間】

1. エレメンタル髄質

エレメンタル髄質（エッセンス）という言葉は、
いろいろな著述者によって各種各様の存在者の意味に使われているが、
ここでは移り変わりゆく生命過程のうちの、ある段階にあるモナド髄質を指すものとする。
このモナド髄質は、霊すなわち神の聖なる力が質料の中に流出したものである。
このエレメンタル髄質の進化は、上方ではなく、下方に弧を描いて進行していく。

すなわち、質料から離れていくのではなく、鉱物の場合のように質料と完全に絡み合う方向に進んでいく。
従ってエレメンタル髄質にとって、進化とは高い界層に向かっての上昇ではなく、
質料の中への下降であることを理解しておく必要がある。
――厳密に言えば集団としてのこの王国に関しては、一個の独自のエレメンタルというようなものは、
実は存在しないのである。そこに実在するのは見渡す限りエレメンタル髄質の海であって、
それが最も移ろいやすい人間の想念に、驚くべき程の敏感さで、人間が全く無意識のうちに、
意志を働かしたり欲望を起こしたりしただけで、その中にある種の波動が起こり、
アッという間もないほどの素早さでそれに応ずる。しかしながらそのような想念や意志の影響によって、
エレメンタル髄質が塑成されて生きた力となると、それは一個のエレメンタル（念霊）となり、
「人工の存在者」の部類に属することになる。ところがそうして発生した個々のエレメンタルも、
普通は蜉蝣（かげろう）のような存在にすぎず、その衝動がつきてしまうと、元の木阿弥に戻ってしまう、
すなわち元の無差別一様のエレメンタル・エッセンスの塊の中に沈みこんでしまう。

2. 動物のアストラル体

3. あらゆる種類の自然霊

この部類は余りにも大きく、あまりにも多岐にわたるので、ここでは全体に共通の特徴について、
若干の考えを述べるだけにとどめる。自然霊は人間とは全く違った進化の系列に属するもので、
かつて人類の成員であったこともなく、また今後も人間となることはない。
ただ一つ人間とつながっているのは、一時的ではあるが、同一の惑星に存在しているということだけである。
彼らは進化の進んだ動物に相当するようである。大別すれば七種の部類より成り、
七種のエレメンタル髄質の浸透している、七種の状態の質料の世界に住んでいる。
それが、地、水、火（エーテル）、風（空）の自然霊で、明らかにそれぞれの界域に住み、
かつそこで働いている、知恵あるアストラル存在者である。
―― 各部類には偉大なる首長がおり、彼は全自然界を指揮、指導する大智恵者である。
その統制の下に、各部類の存在者たちが自然を治め、自然に力を与えている。
―― 自然霊界は人間とは根本的に違う（たとえば、性別がなく、恐怖がなく、生存闘争がない）
けれども、彼らが進化していくとその最終的な結果は、あらゆる点において人類の到達する境地に等しい。

4. デーヴァ

ヒンドゥー教徒のいうデーヴァという存在は、他の宗教では、天使とか仏天とか、神の子とかいわれる。
彼らは人間のそれとは明らかに異なった進化系に属し、それは人間より一段階上の世界と見てよい。
―― 彼らが人間になることは決してない。彼らの大部分はすでに人間の段階以上にあるからであり、
中には過去において人間であった者もいるほどである。
――デーヴァの進化の目的は、デーヴァのトップクラスの位格を、人類進化の対応期間内において、
人類に予定されている進化レベルよりもずっと高度に引き上げることにある。
デーヴァ種族の低い段階の方を大きく分けると次の三つになる。
①カーマデーヴァ（最低の体はアストラル体）、②ルーパデーヴァ（最低の体は下位精神体）、
③アルーパデーヴァ（最低の体は上位精神体・別名コーザル体）。
―― この三つのクラスの上には、やはりその大きく分けて4クラスあり、
デーヴァ王国の上と先には惑星大霊の大群がおられる。
―― 以上のほかにデヴァラーヂャと称される方が四柱（実際は七柱）おられる。

――この四柱のデヴァラーヂャ方は、人間とは全く異なった進化系統を経てきた存在で、「地球の摂政」とか
「東西南北の天使」、あるいはまたチャトゥール・マハーラーヂャとかいわれているが、
別に他のデーヴァ達を支配しているわけではなく、地・水・火・風の四大およびそこを住み家としている自然霊や
髄質を司っておられる。――あらゆる宗教がそれぞれの象徴法で彼らを記述し、
人類の守護者として最高の崇敬を払っている。
彼らは人間の地上生活中のカルマを司り（カルマを司る宇宙の神々の意図を、正確に実現する）、
さらにそのうえ人間の運命にこの上なく重要な役割を果たしつつある。
――高級の自然霊達と人工エレメンタル群はすべて彼らの機関として、その途方もなく巨大なる御業に携わっている。
――彼らがアストラル界層に姿を現わすことはめったにないが、姿を現わした時は
それこそアストラル界層の非人間の中でも最も顕著な存在となる。

【人造物】

この人工の存在者達は、アストラル界層における最大の部類をなし、人間にとって一番重要でもある。
彼らは若干の知性を持った未完成の巨大な塊のようなもので、人間の想念が異なるにつれて
彼ら自身の間にも差異が生じ、従って詳しく分類したり調整したりするのは不可能である。
念霊はもともと人間が造り出したものであるから、それは当の人間に密接なカルマの絆で係り、
直接かつ不断に本人に働きかけている。この人工念霊を強いて分類すれば次の通りとなる。

1. 無意識に形成された念霊

人間が欲望を発したり想念を起こしたりすると、それは可塑性をもったエレメンタル髄質に働きかけて、
瞬間的にそれぞれに相応しい形を呈した、生き物と成ってしまう。
その形態はもはや最初の創造者（人間）の制御の手をはなれ、独自の生涯を始め、
その寿命はそれを生じさせた初めの想念の強さに比例して、数秒から長期間にわたる。

2. 意識的に形成された念霊

始めからよく計算して行為し、自分の為しつつあることを正確に知り尽くしている人が
意識的に造り出した念霊は、無意識のうちに造り出されたものとは比較にならぬくらい大きな力をもつことは、
見やすい道理である。――念霊をいわば科学的に造成し、相当の知識と熟練とを得た人がそれに指示を与えると、
ほとんど万能に近い業をなす。

アストラル界には人の思い（感情）から生まれたものと、それとは無関係に、
それぞれ自身の進化のためや、人の進化を助ける目的で存在するものの、2種があるのだと思います。
私は残念なことにアストラル視力（感官）が未発達なため、これらの住人をみたことがありません。
だからといって全てを妄想、迷信とする気にもなれず、アストラル界は私にとって
「パンドラの箱」（とんでもない事になりそうで、開けたいけれど、開けられない、宇宙の真実。。。）
のようなものであった気がします^^
強い思いは、やがて形となって現れることから、現実社会はアストラル界の写しであるとも言われます。
人のネガティブな感情から生まれた多くのものは、私達が意識を向けなければ力を失い、やがて消えてしまいます。
逆にワクワクする夢や、真摯な願いは、共感（共鳴）によって大きく育てていくことも可能なのだと思います。
アストラル界に振り回される人ではなく、アストラル界を活用できる人となれば、
地上社会は、私達の願いをそのまま映し出す、夢のような世界へと変わっていくのではないでしょうか。
パンドラの箱の底に残ったとされる「希望」、それを掴み取る事が出来るのは、
進化した人類の意識の力であり、その時が今！なのだと思います^^

私は、妖精や自然霊と呼ばれる存在と、自由に会話が出来るようになったらス・テ・キ！^^

たぶん最初は驚いて、逃げ出す気がしますが…（笑）。

ここまでで、『ハムのワクワク神智学』第一弾！とさせていただきます(^^)/

以降、メンタル界、コーザル界、ブッディ界。。。と、根源まで、∞の界層を上っていくことになりますが

“地球”＝“根源”であり、この地上にいる“人”が、その足で、一歩一歩昇る

“根源へのアセンション”という階段です！

一つ注意点があります

この度の、壮大なるアセンションは、常に地球さんと共にある！ということです。

なので、途中で降りる地面はない、ということになります。

（つづく）

2020.1.12